

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表： H31 年 4 月 25 日

事業所名 下呂市さくらんぼ教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4/4		・ unnecessary玩具の移動等を行いながらスペース確保を行っている。	
	2	職員の配置数は適切である	4/4			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3/4	1/4	・片づける場所に写真を貼り目で見てわかるようにしている ・子どもには手を貸したり、抱き上げ移動等を行うようにしている。	・外部からの来室はバリアフリー対応ではない。必要に応じ市ロープ等設置を検討していく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4/4		・対象となる子に合わせて環境設定を行っている。 ・掃除等行い、掲示物等も気にならないようにしている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4/4		・指導後に話し合いを設け目標を設定している。 ・常に個々の療育に関する事、支援全体の事を話している。	・保護者の意見は聞いているが評価表には記していなかったため改善につなげる
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		4/4	・言葉が増える事、人との関わりが持てる事などさくらんぼ教室のおかげで人と関わる楽しさも学び、言葉もとても増えた。	・事業所としては行っていなかったのが今後実施して改善に努めていく ・これからも続け、改善を行って行く。 ・日頃を振り返るとともに保護者の意向を把握することが出来た。これから公表していく
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している		4/4	・こども園の評価は年に2回行っている	・事業所独自の評価を行いホームページや会報等で公開していく ・今回初めて事業者評価を行いこれを踏まえて会報などで公開していく
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2/4	2/4	・園全体（園と支援センター等）の第三者評価を行っている	・こども園の第三者による外部評価で教育保育と児童発達支援事業が連携し支援を行っている事を評価してもらっている
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4/4		・研修会、勉強会に進んで参加している ・療育・保育に関する研修会に積極的に参加している。	・市保育研究会・県障幼研の会員となり参加している。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4/4		・指導員を交えて話し合いを設けている ・保護者とのアセスメントと共に担任との連携を持ち集団生活での困りも踏まえ支援計画を立てている。	・未就園児に関しては保健師と連携を取り、支援計画作成を行って行く。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4/4		・4事業所共通のアセスメントで行っている ・他のさくらんぼ教室と合わせたものを使用している。	・改善が必要となった時は、他のさくらんぼ教室と連携し改善を行って行く。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4/4		・他のさくらんぼ教室と合わせたものを使用している。	・改善が必要となった時は、他のさくらんぼ教室と連携し改善を行って行く。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4/4		・沿いながら進めている ・確認を行いながら行っている。	・半年を待たず支援計画の確認や変更も行っている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4/4		・対象児にあった指導内容を検討して進めている ・意見を交えながら個々にあったプログラムの立案を目指している。	・保護者の話を丁寧に聞き一人ひとりに合った支援を行っていくように対応する。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4/4		・事前に話し合いをし職員皆で意見を出し合うようにしている ・週毎に見直し改善、工夫を行っている。	・これからも大まかな流れは変えず内容を変え経験できるようにしていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4/4		・子どもの状況に応じて組み入れている ・年齢にとらわれず、個々の様子で個別、集団を見極めて取り入れている。	・保護者のかたからしっかり話を聞き保健師や園などと協議して保護者の方に納得していただけるよう対応していきたい。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4/4		・前日に話し合いをし内容・ねらいを決め子どもに向き合うようにしている ・役割分担・内容確認・子どもの朝の様子を踏まえ確認作業を行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4/4		・振り返りが出来る様声をかけている。悩みなどを言い合えるようにし情報共有をしっかりと行っている ・子どもの様子、保育士の関わり反省点等話し合っている。 ・その日の子どもの様子、支援の仕方について共有しよく話し合っている	
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4/4		・反省を必ず記入し次への課題を見つけるようにしている ・目標を立てその反省や様子を記録している。		

	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4/4		・行っている ・こども園で送迎時保護者に様子を聞いたり担任と連携をとり合って見直しの必要などきは行っている。	・半年を待たず支援計画の確認や変更も行って行く。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4/4		・状況に応じて連絡を取っている ・児童発達支援管理責任者が参加している。	
	22	母子保健や子ども子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4/4		・係会という会議の中で行っている ・保健師、支援センター、こども園園長(主任)等で支援会議を行っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教	4/4		・ケース会議や必要に応じて連携をとるようにしている ・1.6歳健診2歳児教室3歳児健診に出向き情報を共有している。教育支援委員会や園小会議に参加し連携をとり合っている。	・通室している場合連携・支援体制は取れる状態である。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡	4/4		・保護者から詳しく話を聞かせてもらいわからないところは電話等で連絡を取っている ・保護者の了承を得て、ST・OT・PTと連携会議を行っている。リハビリ見学やケースワークと連携をとり合っている。	・通室している場合連携・支援体制は取れる状態である。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4/4		・園に併設しているため情報交換できている ・未就園児が入園する時等保護者の同意を得て情報を共有し支援を行うようにしている。 ・事業所での活動ノートを担当にも読んでもらい保護者、事業所で共有している	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4/4		・電話等ですぐに連絡を取り合っている ・こども園・さくらんぼ教室・小学校との連絡会議を行っている。特別支援学校の見学や参観を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4/4		・市内で公開療育を行っており学びの場を設けている。勤務終了後研修時間を作っている ・市内さくらんぼ教室公開療育や研修会に参加している。飛騨圏域の会議や研修にも参加している。 ・公開療育をして学び合う。又、岐阜大学の先生と契約し園、さくらんぼ教室への助言指導を頂いている	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4/4		・統合保育を行っている。園と併設しているため常に情報共有できる ・こども園併設の為連携は取れている。 ・統合保育をしている	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3/4	1/4	・園内で子育て係会を行っている	・飛騨地域障がい者自立支援推進会議を開催している ・保健師、支援センター、こども園園長(主任)等で支援会議を行っているが地域の子育て会議等はなく、参加していない。それに関する会議等要請があれば積極的に
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4/4		・連絡帳を交換しながら指導日の内容や様子を伝えたり悩みを書いてもらったりしている ・連絡ノートにて細かく様子を伝えるようにしている。支援方法もわかりやすく伝えるようにしている。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3/4	1/4	・必要に応じて資料を用意したり便りで知らせている	ペアレントトレーニング等積極的に行っていく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4/4		・面談時に時間を設けて説明をしている	入室時に行っているが、年度毎にも行うようにしたい。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4/4		・面談時に時間を設けて説明をしている ・集団での様子を担任と連携し合い、児童発達支援計画作成、実施を説明している。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4/4		・悩んでいると思われる時にはすぐに面談の時間を作って対応している ・担任を通し相談を受ける事もあり、日にちの調整を行い助言、支援を行うようにしている。	支援センター等に出向き、気軽に相談ができるようにしていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3/4	1/4	・集合日や集いを各4回ずつ設定している ・定期的に保護者が集まって話をする機会を設けている(親子会+座談会)	さくらんぼの集い等積極的に参加していただき連携と支援をしていく
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応して定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4/4		・すぐに時間を作って対応している ・担任を通し相談を受ける事もあり、日にちの調整を行い助言、支援を行うようにしている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4/4		・お便りを定期的に発行しさまざまな情報を発信していくようにしている	引き続き行事予定等と共に様子も合わせて発信していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4/4		・しっかりと施錠している ・目に触れるところに個人の物を置かない、掲示しない、鍵をかける等行っている。 ・個人情報に関わる書類が置いてあるところは施錠している	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4/4		・保護者と連絡ノート等で知らせている ・お便りのほかにメモ書き等で詳細に伝えるようにしている。	

非常時等の対応	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3/4	1/4	・いつでも見学してもらえるようにしている	地域に開かれた事業運営について検討を行って行く。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4/4		・マニュアルを作成している。園と一緒に訓練している ・マニュアルはこども園に準じている。訓練も実地している。	引き渡し訓練をこども園に準じて行っている。各、訓練や感染症対策等保護者へ周知していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4/4		・月1回避難訓練を行っている ・こども園と連携し同じ日に訓練を実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4/4		・保護者からの連絡をもらった時点で職員に伝達している ・保護者、担任と連絡し合い状況把握を行っている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4/4		・医師からの情報を保護者・栄養士・保健師の三者で会議を持ちその情報を共有している。 ・こども園と連携しアレルギーの対応を共有している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3/4	1/4	・こども園内で一緒に作成し共有している。 ・こども園と連携し同じ様式で記入している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4/4		・研修に参加した後、職員内で報告をし伝達している。 ・虐待についての研修を受けたり研修報告にて話を聞いている	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載して	2/4			

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。